

ケーススタディ

カリフォルニア大学サンタバーバラ校 (UCSB)、 Cohesityのシンプルなスケールアウト型 ハイパーコンバージドセカンダリストレージ ソリューションにデータ保護を統合



概要

カリフォルニア大学サンタバーバラ校 (UCSB) は公立の研究大学であり、10のキャンパスからなるカリフォルニア大学システムの中の1校です。1891年に独立系教員養成学校として設立され、その後1944年にカリフォルニア大学システムに加わりました。一般教養キャンパスとしては同大学で3番目に長い歴史を持ちます。

UCSBは博士課程を持つ総合大学であり、5つのカレッジとスクールで構成され、87の学士号と55の大学院学位を提供しています。2万4,000人以上の全日制学生が在籍し、13の部門で1,000人を超える教職員が働く同校の様子は、さながら1つの小さな町のようなものです。

US News & World Reportによる2016年の大学ランキングで、UCSBは「国立大学」の37位、米国公立大学の8位、世界の優秀な大学の24位にランクされています。

課題

UCSBのアドミニストレーティブ&レジデンシャルIT (ARIT) では、40人の専門家からなるチームが警察、人事、設備、住宅などの部門を含むキャンパス全体のサポートにあたり、ITインフラストラクチャが想定どおりに機能するようにしています。ARITのセカンダリストレージは複数のポイントソリューションを組み合わせて構築されており、複雑で高コストな環境となっていました。UI/設定と保守は複雑で、複数のソリューションに精通するのはスタッフにとって容易なことではありませんでした。複数のライセンス契約や保守契約を維持していることで、管理コストにも悪影響が及んでいました。またバックアップ容量の追加にかかるコストの急騰により、チームでは複数の基幹システムにバックアップ保護を拡張することができずにいました。

UCSBのITチームが抱えていたもう1つの課題が、同校の警察のボディカメラや車両カメラで収集された増え続けるデータをどう保護するかということでした。これらのデータは重要性が高く、保護が義務付けられています。このような問題に対処するために、チームでは市販されているソリューションの評価を開始することにしました。その際の選択の基準は以下のようなものでした。

- クラウドへのデータレプリケーションに対応したシンプルなバックアップソリューション
- 警察車両/ボディカメラでのビデオキャプチャとストレージで使用するための、Azure GovおよびCJIS対応のレプリケーション性能
- 将来的な拡張を妨げることのない、予測可能な価格
- UCSBが安心して頼ることのできるエンタープライズレベルのサポート

業界 教育

ユースケース
データ保護&クラウド統合

ソリューションパートナー
VMware, Microsoft Azure and AWS

チャネルパートナー
ACS

警察の車両カメラやボディカメラで撮影した動画など、保存が義務付けられた重要データは増加の一途を辿っています。Cohesityのおかげで、これらを容易にバックアップし、要請に応じてファイルをすぐに取り出せるようになりました。バックアップからリカバリ、分析、モニタリング、アラートまで、全てのものがシンプルでアクセスが容易なユーザーインターフェイスのもと、1つに統合されています。

– UCSB アドミニストレーティブ & レジデンシャル IT 担当ディレクター、
ベン・プライス (Ben Price) 氏

ソリューション

3カ月後、Veeam、Rubrik、Cohesityの実地での実証実験 (PoC) を経て、ARITチームは断片化したUCSBのレガシーソリューション (Commvault、Tegile、Nimble) に代えて、Cohesityの統合型ハイパーコンバインドセカンダリストレージプラットフォームを導入することを決めました。Cohesityのネイティブなクラウド統合により、チームはプロダクションデータをMicrosoft Azureや、警察動画の保護のためのAzureGov、あるいはAmazon Web Services (AWS) にシームレスにオフサイト複製できるようになりました。

ITチームは13の全ての部門に単一のソリューションを提供し、バックアップを1つのプラットフォームに集約しつつ、必要に応じてスケールアウトできるようにしました。Cohesityによって、設定と継続的な管理が劇的に簡素化され、ユーザはバックアップとリカバリの作業、外部ソース、モニタリング、アラートの全てを1カ所で確認できるようになりました。

近い将来、チームはテスト/開発環境でのCohesityの使用を計画しており、これによってプライマリストレージ容量の最適化が促進されることとなります。

結果

UCSBはデータ保護要件の拡大に対処し、断片化したセカンダリストレージをCohesityに統合しました。Cohesityの導入により、以下のような成果がもたらされました。

- データのバックアップとリカバリのプロセスが大幅に簡素化されました。Googleに似たグローバル検索機能により、ファイルの詳細な検索と読み出しを短時間で行うことができます。
- Microsoft Azure、AzureGov、AWSとネイティブクラウドとの統合により、データを確実に保護し、必要に応じて瞬時に取り出せるようになりました。クラウドの経済性により、容量を速やかに最適化することが可能です。
- 複数のポイントソリューションと、断片化した環境の管理コストが不要になったことで、運用コスト (OpEx) が50%以上削減されました。
- 時間とコストのかさむベンダトレーニングに時間を取られることなく、より重要な仕事に集中して取り組み、革新性を高めることが可能です。

まとめ

UCSBは、13の部門全てに、スケールアウトに対応した統合型のデータ保護ソリューションを提供するために、Cohesityを採用しました。使いやすく管理の容易なUIにより、ユーザはバックアップやリカバリの作業、モニタリング、アラートینگの全てを1カ所で確認できるようになりました。Cohesityのネイティブクラウド統合により、ITインフラストラクチャチームはプロダクションデータをクラウド内でシームレスにオフサイト保護できるようになりました。